

表および図の原稿見本

留意点

- 表および図の原稿は既刊号を参照し、刷り上がり相当の大きさに描くこと。
(入稿ファイルがそのまま版組されることに留意すること)
- 1枚の図表の幅は、1段では85mm、2段では175mm。
- 追い込みで1ページに複数枚をいれても可。
- 表のタイトルは上に、図のタイトルは下にテキストで入力。
- 表および図本体のフォントは、和文ではゴシック系、英文ではArial系。
- 表本体のフォントの大きさは、原則として刷り上がりで8~9ポイント。
- 図本体のフォントの大きさは、原則として刷り上がりで8ポイント以上。
- 白黒印刷希望の図は白黒で。
- カラー印刷希望の図はカラーで、ページの右肩に「カラー印刷希望」と明記。
- 白黒印刷希望の図とカラー印刷希望の図とは、同じページにしない。
- 表および図を作成するソフトは任意。

表-1. 地形区分ごとの各生活型の樹高階別個体数分布

樹高階級値(m)	2	4	6	8	10	12	14	16	16超
HS									
常緑高木	15	9
常緑低木
先駆性高木
その他落葉高木	1
落葉低木	8	2
USS-U									
常緑高木	15	61	5
常緑低木	.	2
先駆性高木	9	45	20	1
その他落葉高木	7	6	.	1
落葉低木	37	33	3
USS-M									
常緑高木	14	3
常緑低木	14
先駆性高木	7	15	26	10	2
その他落葉高木	4	2	1
落葉低木	11	19	6
USS-L									
常緑高木	3	1
常緑低木	9	1
先駆性高木	3	11	14	5
その他落葉高木	4	2	1
落葉低木	8	10	6
LS									
常緑低木	4	1
先駆性高木	2	3	2	1
その他落葉高木	1
落葉低木	23	14	6	2

【説明書き】表中の数値は表示した樹高階級値以下で直下の階級値を超える樹高(m)の個体数を示す。ただし2 m以下の階級は調査対象に満たない個体は含まない。

表-2. 地形区分ごとの各生活型の個体数の消長

	各年の個体数														延べ数		
	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	新規加入	枯死	出現総数
HS																	
常緑高木	24	26	29	31	33	34	33	32	<u>34</u>	<u>36</u>	<u>37</u>	<u>37</u>	<u>36</u>	<u>36</u>	17	5	41
常緑低木	0	0	0	1	1	1	2	2	<u>2</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>4</u>	<u>4</u>	<u>4</u>	4	0	4
先駆性高木	0	0	0	0	0	0	1	1	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	1	0	1
その他落葉高木	1	2	2	1	2	2	2	1	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	3	3	4
落葉低木	10	10	9	10	10	10	11	10	<u>8</u>	<u>8</u>	<u>8</u>	<u>8</u>	<u>8</u>	<u>7</u>	5	8	15
USS-U																	
常緑高木	81	85	87	88	90	92	92	90	91	91	92	90	89	87	16	10	97
常緑低木	2	3	7	14	14	14	15	16	17	18	19	19	19	19	17	0	19
先駆性高木	75	56	38	31	29	22	15	11	11	10	9	7	6	4	3	74	78
その他落葉高木	14	15	14	11	10	11	11	7	7	7	6	5	5	5	4	13	18
落葉低木	73	61	49	34	29	26	22	20	18	16	13	9	8	7	5	72	78
USS-M																	
常緑高木	17	17	18	18	19	20	21	22	23	23	23	22	22	22	6	1	23
常緑低木	14	17	22	30	39	47	50	54	57	58	59	65	72	74	61	1	75
先駆性高木	60	49	31	29	28	26	25	22	21	19	19	19	18	18	0	42	60
その他落葉高木	7	7	6	9	9	9	9	8	8	6	6	6	6	6	4	5	11
落葉低木	36	23	18	12	10	8	9	11	10	10	10	8	8	8	3	31	39
USS-L																	
常緑高木	4	5	5	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	3	0	7
常緑低木	10	11	16	29	36	39	45	50	54	57	58	62	67	69	59	0	69
先駆性高木	33	20	13	10	10	10	9	8	8	7	7	7	6	6	3	30	36
その他落葉高木	7	9	7	6	6	7	6	4	4	4	3	3	2	2	4	9	11
落葉低木	24	21	23	28	27	26	25	25	25	24	23	23	23	22	14	17	38
LS																	
常緑低木	5	6	6	7	11	11	11	12	13	12	13	15	16	16	13	2	18
先駆性高木	8	7	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	0	7	8
その他落葉高木	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
落葉低木	45	47	41	41	41	38	38	38	36	35	33	31	31	28	16	33	61

【説明書き】地形区分ごとの生活型ごとの個体数について、各年の個体数、調査期間全体を通じた延べの新規加入数、枯死数、総数を示す。各年の個体数から求めたケンドールの順位相関係数と有意確率を右端に示す。延べ出現数が3以下のものは解析の対象としなかったので空欄で示す。HSでは2001年以降は一部が刈り払いの影響を受けており他と同等の比較ができないので、その期間の値をイタリックで示す。また、HSは2001年以降のデータを使わずに τ と p を求めた(値にアンダーラインを付して示す)。

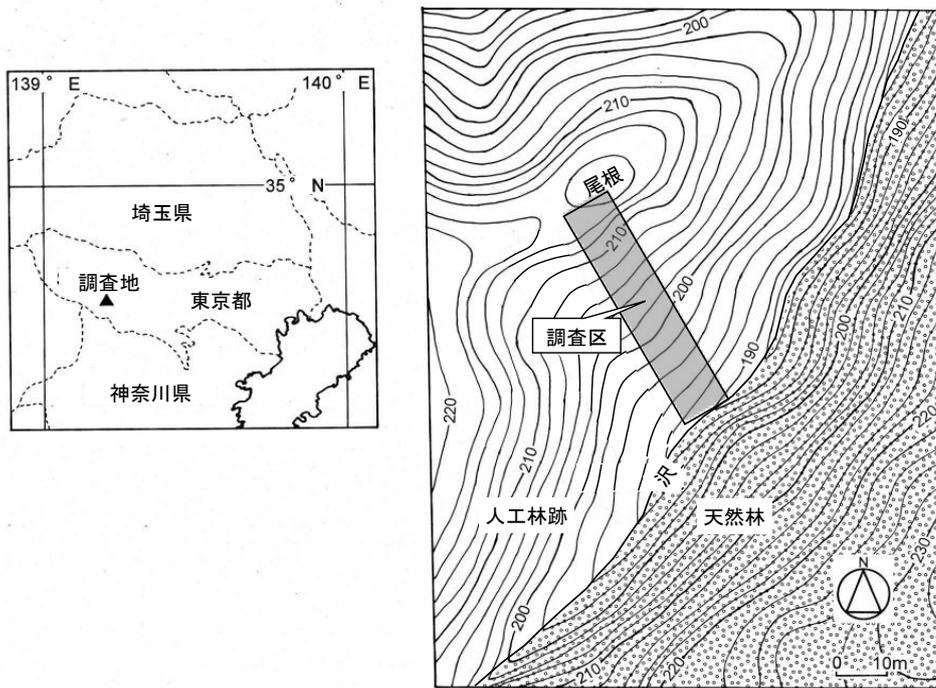


図-1. 調査地位置図

【説明書き】 右図の右半の網掛け部は天然林，左半の白色部は気象害を受けた人工林跡。

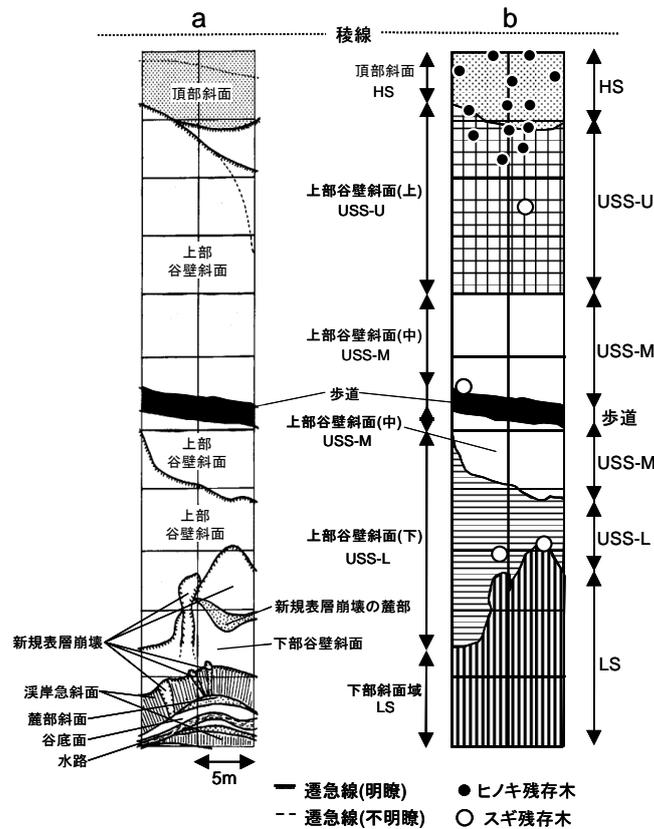


図-2. 調査区内の地形区分とスギ・ヒノキ残存木の位置

【説明書き】 a: 田村(1996)による地形区分, b: 解析のための地形区分とスギ・ヒノキ残存木の位置
 グリッドは斜距離 5 m 四方。地形区分は USS-U と USS-M の間以外は，遷急線を境界とする。USS-U と USS-M の間は，便宜的に稜線側から 4 段目と 5 段目のグリッドで分けている。

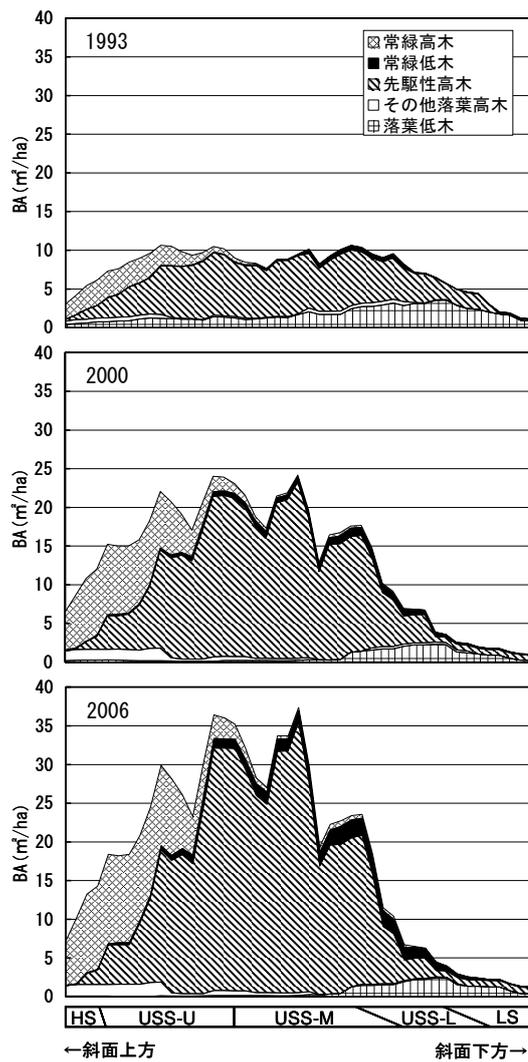


図-3. 再生群落の斜面に沿った胸高断面積合計(BA)の変化(上：1993年，中：2000年，下：2006年)
 【説明書き】斜面に沿って10m区間ごとに計算した胸高断面積合計を，1mずつ移動させたときの変化。
 横軸は左が斜面上方，右が下方。おおよその地形区分との対応を図の下部に示す。スギ・ヒノキの残存木は除く。

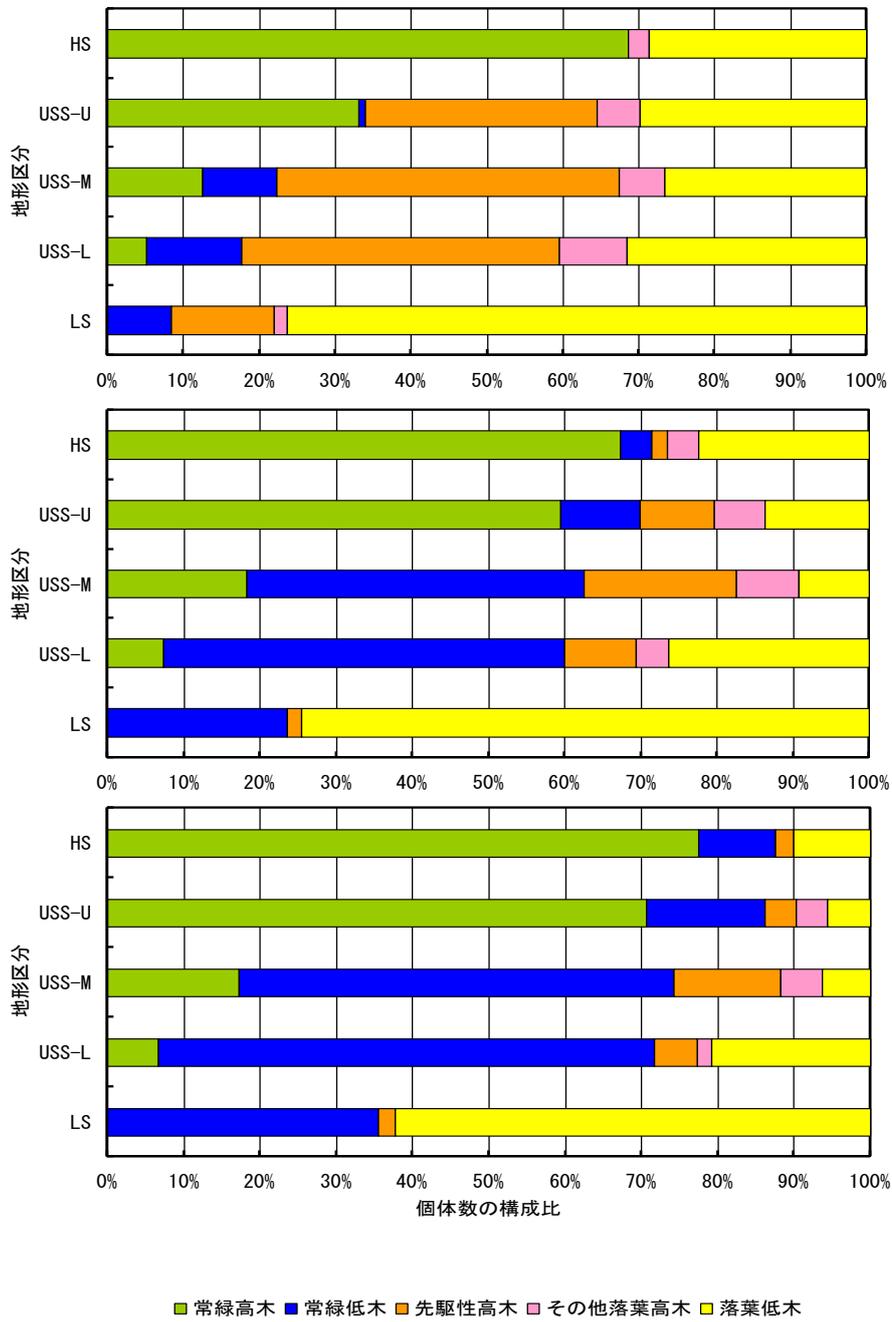


図-4. 地形区分ごとの各生活型の個体数の構成比(上：1993年，中：2000年，下：2006年)